

羅 針 盤

第 7 号

令和4年（2022年）5月23日（月）



◆ 「思いやり算」の心

人を笑顔にする算数「思いやり算」を、生徒の皆さんは聞いたことがあるでしょうか。小学校の頃には算数の時間に「たし算」「ひき算」「かけ算」「わり算」を学習してきたことと思います。今日お話しする「思いやり算」は、2011年3月11日に発生した大規模な地震災害である東日本大震災の後にテレビで流されていたACジャパンのコマーシャルで、紹介されていたものです。震度7にも及ぶ大地震、津波による甚大な被害、原発事故による放射線という目には見えない脅威、これまでに誰も経験したことのない状況に、日本中が不安に包まれていました。そのような中で、テレビのコマーシャルをきっかけとして紹介された心の算数と呼ばれる「思いやり算」は、人と人との「絆」の大切さや、「思いやり」を持って人と人々が接しながら、支えあって生きていくことの重要性を多くの人たちに問いかけるものとなりました。まず最初の「たし算」は、困ったり、悩んだりしている人がいれば、お互いに助（+）け合うことです。一人よりも二人、二人よりも三人と、力を合わせ、協力することによって、大きな力が発揮されることとなります。続いて「ひき算」は、困っている人のちょっとした仕事を引き（-）受けてあげることです。些細なことであっても、相手が感じ取れることは意外に大きく、相手の喜びを感じ取れば、引き受けた人にとっても大きな喜びとなります。次に「かけ算」は、声を掛け（×）ることです。日頃から、自らすすんで挨拶することを心掛けて、そういった挨拶も含めて優しい言葉を掛けることによって、お互いの心が一つになっていくことが実感できるということです。そして「わり算」は、困っている人がいれば、その気持ちをいたわる（÷）気持ちを持つということです。相手の心が和（なご）んで、同時に笑顔もほころびます。「思いやり算」の答えは、全てが「笑顔」です。コマーシャルでも、最後に「それは、人を笑顔にする算数。『思いやり算』。ほら、やさしいでしょ。」と結ばれています。小さな優しさは、人に笑顔を与えます。心配りや心配りといったものが、人と人との気持ちを通じ合わせます。この「思いやり算」には、人を笑顔にして幸せにする力があります。私たちは誰もが、多くの人たちの支えの中で暮らしているといったことを忘れてはいけません。ともに過ごす人たちの何気ない行動や姿からも、人を思いやる気持ちを気づかされて、学ぶことがたくさんあるはずです。日頃から、家族を含む周りの人たちの思いやり、敬う気持ちを持って行動することを心掛け、相手の気持ちを理解することが大事なことです。人に対する思いやりの心は、生きている限りずっと学ぶべきものです。「思いやり算」の心を持って、相手の立場に立って、しっかりと考えて、行動することができる人に成長していってくれることを願っています。学級の和、学年の和、そして、学校の和へと広がり続けることで、一人ひとりがお互いの人格を認め合い、お互いを尊重できるように、是非「思いやり算」の心で、誰もが楽しい学校生活を過ごすことができるような学校をつくりあげていきましょう。

